第35回ニセコ町環境審議会議事録

１．開催日時　令和３年９月２日（木）　14：00 ～ 15：30
２．開催方法　現地、およびＷｅｂｅｘの併用による開催
３．出 席 者　委　員：本間泰則氏、阿部武吉氏、黒滝博氏（オンライン）、柴田真年氏（オンライン）、牧野雅之氏
事務局：山本副町長、髙瀬課長、川埜係長、久保主事、小西主事

４．議事内容
報告事項
①環境審議会の全体概要について【資料１】
事務局より、資料１に沿って説明があった。特に意見等なし。

②令和２年度に実施した環境に関する主要な取組について【資料２】
事務局より、資料２に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（会　　長）以前から未実施・実施の状況が変わっていない。これはそのまま放棄してはいけないと認識している。特に、これが環境基本計画としての位置付けの中の具体的なアクションプランに当たるので、まずはその重要性について関係各位の認識をもう一度改め、具体的にいつまでにどうやるのか、その報告を次回、或いは次々回の環境審議会でお聞きしたい。
（事 務 局）事務局としても、未実施や検討中なところが多く、例年同じような回答で進捗がないように感じている。これについて、本当に対応できるのかという部分も含め、次回等の審議会で、今後の対応やフォローアップの方法を検討してご報告したいと思う。

③第４次ニセコ町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について【資料３】
事務局より、資料３に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（会　　長）いまの発表の内容で一つ、数字がこの書面にない新庁舎の数字を教えていただいたが、結論としては、新庁舎の面積が旧庁舎の2.5倍ほど大きいということで、向こうで使っていた各燃料の2.5倍を比較の基準にして、増えた、減ったという報告をいましていただいた。絶対数値では、当然大きくなっているはずですよね。A社に関しては、コロナがどういうふうにこのエネルギー消費に影響を与えているのか、教えていただけるか。
（副 会 長）まず、いまの役場の関係は、延べ床面積でいくと2.5倍ほどあるということ。また、学校関係でCO_2排出量が今回増えている。新型コロナウイルス感染防

止として窓を開けて換気を優先的にやったために、暖房や冷房でのオイル代が例年以上にかかったということ。ただ、B 社だけは CO2 排出量が 20%ぐらい下がっており、今回入れたヒーティングに関して非常に効率よくいっていると思う。暖房とお湯、循環の温泉の沸かしの 3 点。

最後に会長からの質問で、A 社側はどうしたかということですが、非常にお客さんが減ってしまい厳しい状況。非常に売り上げが下がっている。しかし、下がった分だけかかる経費や排出量を落とさないといけない。今回、それは非常に苦労した。なぜなら、今年の夏は非常に暑く、ニセコ町も平均気温が 2 度ぐらい暑かったため。そういう状況が続いた中だと、やはりお客さんは部屋が暑いと感じるため、普段は冷水を回して冷房を入れるが、いつも 10 度でまわしている冷水を 2 度上げて、いかにエナジー整備をしてコストや CO2 排出量を下げていくかという苦労をしたほか、お客さんが入る前にドレープカーテンを閉めていかに断熱するかということもして、いろんな対策をしました。最終的には、うちの方で、電気や灯油の使用量が 20%～30%くらい減っている。それは稼働が減ったという理由と、いかに CO2 排出量を下げる努力をしたかという 2 つの理由で差がありました。今回苦労したのはそこです。

（会　　長）大変な苦労をされたことがひしひしと伝わった。同じ条件にある C 社の方はどんな感じか。

（委　　員）いまの副会長のお話と同じような状況で、お客さんが減っているので、その分のエネルギー使用量が減っている。C 社については、小さなホテルなので、お客さんが減った分、どんどんエネルギー使用量が減っている。おかげさまで CO2 排出量が減るという状況だが、うちのグループ全体で言うと、例えばある程度大きいホテルの場合は、維持していかないと駄目だということで、止めてはいけないエネルギーがある。これがうちのグループ全体的には苦労した。小さいホテルは、ある程度指示をすれば数字も見えてくる。これはやはり、休むとドンと下がるというような状況で、下がったからいいというわけではないが、やはりお客さんを取り戻さないと会社は成り立っていかないということで、非常に厳しい状況が続いている。現状はそういう状況。

（会　　長）民間のこれだけぎりぎりまで詰めているこの状況と、このパブリックのセクターがどこまでこの状況の中でそれぞれ努力して削減されているかというところも、数字の裏にあるそれぞれの心の持ち方といいますか、その辺もぜひフォローしていただいて、少しでもそのマインドアップというか、これを求めるのがこの環境審議会の役割かと思うので、数字の報告はまず第 1 ステップとして、そのあとのフォローアップも引き続きよろしくお願いしたいと思う。

（委　　員）資料 3 の 2 ページ目の平成 30 年度の実績と、令和 2 年度の実績の表だが、平成 30 年度の方に登山道路 A と出ているが、令和 2 年度の方には登山道路 A がないようだが、何か施設的に変わったのか。

（事 務 局）こちらに関しては、年間 10 万 kWh 以上となっている施設を抽出したものとなっているため、今回は 10 万 kWh を超えていないというところで載せてい

ない。

（委　　員）そうすると、別ではないが、実は同じ比較はできないということか。

（事 務 局）そういうことになる。

（委　　員）一つ一つが減っているということか。

（事 務 局）令和 2 年度の一番下の全施設合計というところには入っているが、今回の表には 10 万 kWh 以上の施設だけを入れさせていただいている。

（委　　員）この全施設の中には、同じように入っているということか。

（事 務 局）入っている。ただし、今回は 10 万 kWh 以下だったため、この表の中には入っていない。また、いまの登山道路について補足すると、実はニセコ町には 3 ヶ所のロードヒーティングがある。ビレッジスキー場、アンヌプリスキー場、モイワスキー場の 3 ヶ所。それでいま、担当の都市建設課の方では、やはり無駄な電気をロードヒーティングには流せないということで、日々チェックをしており、いまはモイワの方のロードヒーティングの改修が終わり、今年はビレッジの方に上がるロードヒーティングを改修する。この改修により、センサーがより効率良く動き、表面にも熱がきちんと伝わる。何とか電力を削減したいということで動いており、一番電力を消費しているアンヌプリスキー場のほうは、割と順調に動いているので、まだ改修する計画が具体的にはないが、モイワと東山の 2 か所については、改修により電力量が同じ気温の環境条件であれば少しは減ると期待している。

④令和 3 年度省エネ診断支援委託業務について【資料４】

事務局より、資料４に沿って説明があった。特に意見等なし。

⑤ニセコ蘭越地区地熱資源利活用協議会について【資料５】

事務局より、資料５に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（会　　長）この地熱のプロジェクトはいま最終調査段階ということで、この結果によって、先に行けるのかもうこれで諦めざるを得ないのか、はっきり方向が固まってしまうぎりぎりのところかと理解している。杓子定規のルールで調査期間は何年で打ち止め、調査井戸は何本で終わりと打ち切られてしまうとなると、せっかくの潜在的な資源の活用の可能性をついでしまうことになるという危機感を持っている。そういう方向にいま進みつつあるという感じを強く受けてしまうため、これだけ大きなインパクトのある巨大な熱資源を是非とも活用するために、いかに JOGMEC 等への働きかけを両町で積極的に行うか、いち民間事業者の問題ではなく、やはり両方の「町」としての大きなインパクトのあるプロジェクトなので、ぜひそれを町長に、これこそ建議したいというふうに思うので、皆さんご意見があればぜひ、大変重要なお話なので、このまま終わりというわけにはいかない話だと思う。

（副 会 長）私のほうも、ニセコ町は2030年までにCO2排出量を46%カットすると目標に掲げているが、今の状況では非常に厳しいと思う。再生可能エネルギーの電気を全部購入するようなことをしないといけないと形。やはりニセコ町でも蘭越町でもそういう再生可能エネルギーの熱源がないと、非常に厳しいと思う。2050年には、再生可能エネルギーの使用率を100%に近くするとなると、やはり地元にそういう資源があると利用しやすいと思うので、そこはやはり両町長にお願いして、いかに良いものを利用して使い、CO2 を削減していただけるかというふうにお願いしたい。

⑥二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金について【資料６】

事務局より、資料５に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（会　　長）委員に一つ教えていただきたいことがある。B社では、もともと自分の井戸からくみ上げた源泉を使っていると理解しているが、その温度を 2 年前に大分上げることができたということがステップとしてあり、それに加えて今回のコジェネの話が上に乗っかり、さらに大きな削減効果に繋がっていると思うが、そうなると、井戸をもう１回掘りなおして温度を上げた効果というのは、どこに反映された理論になるのか。

（委　　員）内容的には詳しい話はわからないが、結局のところ、井戸が変わったことによって、数字が載ってきている中で見ると、ＬＰガスと循環するときにポンプを使う際の電気も影響しているので、どこがどういうふうにというその分け方はわからない。電気といっても照明の電気も入っているし、循環、それから加温するにあたっては、基本Ａ重油で、洗い場のお湯はＬＰガスのはず。
そのため、A重油の削減量が、基本的には温泉の加温の使用量と、ただＬＰでやっている部分もあるのでかなり減っている。それはもう間違いない。

（会　　長）どこまでその歴史を踏まえて詳しく報告するかは、相手がどういう関心を持っているかによって違ってくると思うが、実態のとらえ方として、今回の投資がもたらした効果と、その前のプロジェクトの効果というのが、何かひょっとすると一緒になっていないかというふうに思ったため、あえて質問した。

（委　　員）きっと、その源泉の加温に関しては、もともとボイラーが２台あり、いまは１台にしている。調べれば何となくわかりそうな気はする。支配人に今度、この辺を次までに参考資料として、もし出るのであれば聞いてみるといいかもしれない。それなりに数字をつかめるように管理していると思うので。

（事 務 局）わかりました。

（副 会 長）コジェネにしたら、電気をおこして熱源をもらうということだと認識している。ＬＰガスは、都市ガスよりカロリーが２倍ぐらい高いと思うが、意外と高くつかないのが驚きだ。

（事 務 局）私が聞いている中では、通常の菅（シリンダー）で買うと非常に高いが、それ

を大容量で直接配送していただくと、割と灯油並みの安定した価格で手に入るとお聞きしている。そのため、うちの新庁舎もこれから本格的にLPガスで暖房が入ると思うが、タンクローリーというか、大きいものにしている。そうすると、安定した契約というか、一般的なものより低い価格で契約できる。灯油は100円近くまで上がることもあれば、80円くらいまで下がるが、そのようなお話を聞いている。

（会　　長）C社は、どのような価格交渉をされているのか。
ＬＰガスは使われているか。

（委　　員）ＬＰガスは主力的にそんなに使っておらず、基本的には調理関係。やはり今、お風呂の話も出たが、重油からＬＰガスに変えるというのは少し不安がある。CO2 は削減になることは間違いないが、単価的にいま副会長が言ったように高く、重油と同じように値段も変わってくる。おそらく、大きなものがあればそのときの値段で入るので、極端なことを言えば安く入ることはあまりないような気がする。そのときの相場の価格のような気もする。一番理想であれば、天然ガスの業者かどこかに頼んで基地を作ってもらい、大きなものを作らない限りは、ＬＰガスではおそらく重油の金額には敵わないと思う。そのため、CO2 の削減にはなるが、ホテルや僕たちは、前も委員会でコンサルの方が来たときに、重油をLPガスに変えてくださいという話があったが、採算的にはホテルで非常に厳しいという状況。
さっきのお風呂について、汲み上げるときの井戸の温度は今どれくらいあるのか。

（委　　員）源泉が今30度ぐらいだと言っている。

（委　　員）そうすると、やはりあと45度から50度近くまで上げないと駄目ですよね。

（委　　員）10度くらい上げないといけない。それが、前はもう15、16度ぐらいまで下がっていた。

（事 務 局）今回、井戸の場所も、施設と井戸の距離が前は200m以上離れていたが、B社の敷地内に掘り、相当近くなったため、普通は長くしたら冷めるが前より大分良いみたいだ。

（委　　員）その菅は保温しているのか。

（委　　員）当初は断熱をしていない。やはり、ある程度お湯を汲む量があれば、断熱しなくても下がらないというのがあったと思うが、何となく後で調べるとしていなかった。ただし、今回はしてある。

（委　　員）短いと仕方がないと思う。がちっと保温していれば、1キロで1度ぐらいではないかとある業者が言っていた。だから、それは温泉の量の流れによっても違うが、距離が近いのであればそんなに差はないと思う。やはり温泉が低いとつらいですよね。沸かさないといけないので。

（委　　員）お湯に関しては、常時くみ上げて入れていると確かに下がらないと思うが、そんなに人が入らないときにどんどんくみ上げて加温して流すのももったいないので、やはりその辺は湯量を調整するので、意外と流れるときの量が少なく

なると下がる可能性はある。今回は距離的にも 50m くらいあるかないかの距離に機械室があるので、ほとんどいま言ったように保温はしていなくても良いとは思うが、実際はそんなに費用がかかる話ではないので保温はした方が良いとは思う。

⑦気候変動対策推進条例について【資料７】

事務局より、資料４に沿って説明があった。特に意見等なし。

⑧日産自動車との連携について【資料８】

事務局より、資料８に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（会　　長）具体的な話で、ニセコ町から日産グループ側へ要請する支援内容について、どのようなものが今候補として挙がっているか。

（事 務 局）現在、省エネ診断等を受託されている、官民連携のまちづくり会社「株式会社ニセコまち」が事業主体となって、市街地近郊に新しい街区、400 人ぐらいの住宅空間を作るという計画があり、その中でも、ＳＤＧｓの概念で環境負荷の少ない、CO2 排出量の少ない街区にしていくということで議論、設計を進めているところ。その街区の中で、カーシェアを導入していくことや、街区でもコジェネをまわして電気と熱の供給をしていくことを考えている。

その際に、一時的に電気を蓄えるというようなところで、蓄電池としての役割やカーシェアという役割も含めて、大きなバッテリーを積んだＥＶを導入したいというようなお考えを伺っているため、まずはこの協定をもとに、ご相談する案件として担当レベルで考えているのは、その街区への EV 車導入についてぜひ一緒にといいますか、ご協力いただきながらやっていきたいというようなことは、ネタとして今考えている。

あと、これも私のアイデアベースではあるが、いまニセコ町の市外から少し離れたところで、自治会が主体となって、ボランティアドライバーで自車を使って交通不便者を倶知安の病院に運ぶほか、身近な市街地へ買い物に連れて行くなど、助け合い交通というような取り組みも進んでいる。

例えば、そういう助け合い交通の車両として、或いはその地区の防災も兼ねたバッテリーとして、そういった EV が活用できないかというようなところも検討しうるのではないかというふうに考えている。

（委　　員）いま、役場では何台日産のリーフを持っているのか。

（事 務 局）リーフは 2 台ある。

（委　　員）実際に使って、本当に一般の人があれをどんどん買って使いたいかというと、まず充電ステーションの問題、それから電気についても、本当にその CO2 削減になるかというところで、電気とガソリンとで単純に比べれば、電気がどういう電気かによって変わってくるが、なかなか単純な EV というのは難しい

話だと思う。役場の車がすでに半分なっているような、そういう姿を見せてもらわないと一般の人はなかなか頷いてくれない。いま本当に EV、EV とヨーロッパの方で言っているが、果たして本当にそれで気候変動対策になるかといえば、どちらかというと、いま学者の人でもなるという人とならないという人とで半々くらい。これをしっかり検証しないと、環境審議会としても諸手をあげてそうしようという話にはなかなか難しいという部分が最近になってささやかれている。特に、北海道はエリアが広いので、隣の町まで行くのに 30 キロも 40 キロもあって、それからさらに大都市まで行くのに 200 キロも走るとなれば、冬だと電気自動車は本当に中間のどこで充電するのかという話になる。充電器が 1 台や 2 台置いてあっても、そこに 3 台 4 台と次々に人が並んで待っている間にバッテリーが上がってしまうと大変なことになるので、本当にそのへんをきちんと判断しないといけない。日産自動車は、とにかく先行して開発している経緯があるので売りたいだろうが、ただ、どうなのかなとは思う。PHV みたいなものであれば、遠いところにはたまにしか行かないという人は、本当に近場は電気でほとんど走れるし、どれだけ遠いところに行ってもガソリンを少し入れてあげれば走れるという安心感がある。

（事 務 局）国もガソリン車みたいなものは 2030 年には電気自動車に切り替えるという方針を出しているので、おそらく、そのうちニセコのガソリンスタンドも、トラックといったものはともかく、一般乗用の需要がなくなるので、いわゆる充電設備とかがだんだんとコンビニに置き出すのではないかと思っている。方向としては、そうなるのだろうというふうに個人的には感じている。水素の話もしているが、前に村上さんに聞くと、あれもいろいろ難しくて簡単にいくものではないということ。イメージとしてはあるかもしれないが、実際に実用化するとなると相当のハードルがまだまだあるらしい。その前に、やはり電気自動車が主流になるような気がする。20 年後ぐらいの話かもしれないが。

（会　　長）いまの日産を引きつけるネタとしてモデル街区の話が出たが、そのカーシェアで考えている 400 人の人口だと、そもそも何台ぐらいの話が、日産から見るとビジネスとして規模感が見えてくるのか。この辺は何か具体的な数字がもう出ているのか。

（事 務 局）日産とはまだ話題として話してはいるが、具体の数字というところはまだ話し合ってはいない。ただ、ニセコまちさんからは、まずは 3 台入れたいというようなことを聞いている。街区も第 4 工区まで分かれているので、まずは第 1 工区の 100 人ぐらいの規模のときには 3 台くらいを入れていくことで検討している。街区の方で電気自動車を導入するというところで言うと、例えば太陽光等の自然エネルギーを導入したときに、それを平準化するというか、蓄えるというところで、そういったＥＶの活用というところも検討している。

牧野委員からお話のあったとおり、当初平成 24 年に導入した電気自動車は、バッテリーが 24 キロくらいの小さいものなので、100 キロを走れば心配で、冬場はヒーターを入れると全然走らなくなる。そういったいろんなところで

非常に使い勝手がいいものではなかったが、いま入れているものは64キロで、冬場でも30キロぐらいは走るので、役場の公用で札幌を往復することや、千歳空港まで行って帰ってくることは、安心して乗れるレベルにはどんどん上がってきたというところ。あと、ニセコまちさんでも入れたいと言っている、日産さんでリリースされる90キロワットで四駆仕様のものがやっと出るということで、より実用的になるのではないかというようなところは聞いている。金額的には、600万円はくだらないと言っており、やはり庶民が買うには苦しい。町も補助金等があるのでなんとか入れられる。

（委　　員）今のお話で出ている電気自動車について、私どもの方でも事業で協力している埼玉県のとある都市で、同じような事業を展開しようという動きがある。そこは住宅地として開発をし、その住宅地の建物全てにソーラーを乗せ、そのソーラーでかなりの部分の電気を各家庭で賄う話で、それを全部エネルギーマネジメントで、当然使う家と使わない家があるので、うまく融通をして全体で回すという、そういう新しい住宅地で、その真ん中に蓄電池を置き、そこにＥＶも置いて住んでいる住民の方が電気自動車をシェアリングするという事業が、今はもうすでに住宅地自体は造成が完了している。あとはそのシェアリングをどうするかという次の段階で取組みを進めているようだ。もちろん国の補助金をもらってやっている事業ではある。先ほど話題になったように、ただ電気を使う道具としての電気自動車ではなく、再生可能エネルギーをうまく使うための一つの手段としては、やはり電気自動車が今後とも、ある意味では蓄電池になり再生可能エネルギーの使い先としても有効だと思う。

６．その他

（１）ニセコ町森林ビジョンの策定について

事務局より、ニセコ町森林ビジョンの策定について、以下のとおり報告を行った。特に意見等なし。

（事 務 局）「ニセコ町森林ビジョン」というものを、昨年に策定委員会を立ち上げていろいろ議論しており、この８月に策定した。ニセコ町は、森や山に囲まれている地域で、歴史的に昔は製材所があり、ニセコ駅に木を積んでおくようなところもあり、そういった倉庫があったが、現状としていまは製材所等がなく、林業が主要な産業ではないというところで、やはり周りにある資源を有効に使っていき、地域内で循環させていくという観点から、少しでも山の事業を動かしていければというところ。もちろん、産業面だけでなく、今後の環境面も踏まえた上で、そういった取組みが必要ではないかというところで定めたもの。20年後、50 年後のニセコ町の森林の姿というところで、共生循環の森林づくりという目標を定めて、取り組んでいくこととしている。話題提供ですが、その中で推計調査ということでニセコ町の森林における CO2 吸収量のポテンシャルを試算しており、大体ニセコ町の総排出量の 56%ぐらいの CO2 吸収ポテン

シャルがあるという結果も出ている。今後、長期的に森を適正に維持管理をしていき、そして、出てきた材を地元で加工し、地元で使っていくという流れを少しでも生み出していければと考えている。

（２）地下水保全条例の改正について

事務局より、地下水保全条例の改正について報告を行った。その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（事 務 局）地下水を使用するための井戸を掘る場合には、届出や許可を出すというような条例を運用しているが、ここ 10 年ぐらいの間で、ニセコ町においても様々な開発案件があり、町水道を使用できるケースもあれば、井戸を掘って使うというようなケースもある。その中で、今後きちんと水循環を考え、水資源を大切に保管・維持していくという観点から、そういった井戸使用に対するルールを見直すタイミングではないかと感じている。いまは井戸からくみ上げるポンプの菅の断面積で届出になるか、許可になるかという基準を設けているが、その断面積だけでなく、実際にくみ上げる水量も基準として運用していくのはどうかというところで議論をしている。

（副 会 長）要するに揚水量の基準を設けるということか。

（事 務 局）一定以上水をくみ上げるような場合は、許可案件として審議会等で審議をさせていただく。いまの井戸を掘る際の基準は井戸の断面積だけだが、断面積が基準以下でも継続的に水をくみ上げて、例えば貯水槽で貯めるといったケースだと、当初想定していた以上に地下水をくみ上げてしまっていることも考えられるので、断面積だけではなく、実際にくみ上げるだろう水量もその基準として設けていきたいというところで話し合いをしている。あと、もう 1 点として、やはり水循環ということを考えたときに、地下の状況や水位の変化などの情報の蓄積が必要だろうということで、今後大きな井戸を掘る際には、地下水の変動といった情報も、今は使った水の量を報告していただくルールがあるが、その水の量に加えて地下水の水位の変動みたいなところも町の方に報告していただき、それをデータとして蓄積して今後何年先になるかわからないが、こういったエリアではある程度の水資源が確保されている、そういった判断材料の一つになるようなデータについても収集できるようなルールづくりというところも併せて検討している。

（副 会 長）最終的に、その井戸を掘ったときに静水、動水は見る。その限界のリッター数を調べるときに。そのときにリッター数が出ていますよね。それ以上くみ上げると動水が下がって、ポンプが空転して壊れてしまう。静水、動水、24 時間何も揚水しないで溜まっている水の位置を静水位、ポンプで限界までくみ上げて、ポンプの上まで、限界の位置を動水位という。そのため、その位置は決まっていると思う。よっぽどなにかない限り通常は。それを 1 回提出してくれということか。揚水量、静水位、動水位を出してくれということか。

（会　　長）現実的に、どこまでそれが機能するかはまだわからない段階での議論ではあるが、井戸の口径だけでルールを決めるというのも、余りにも片手落ちだろうというところから、今の技術で一体どういうチェックをかければ実際に実行できて、且つ意味もあるデータが取れるか、今はそこの議論をしている段階。

（副 会 長）僕らがニセコ町に出しているのは、ひと月の総使用量だが、一般の許可が要らないものは、24 時間くみ上げて、ずっと最大で使っているかもしれないということか。その人たちにも毎月の使用量を出させればいいのではないか。

（事 務 局）8 平方センチメートル以上はきっちりと町民に報告していただくが、それ未満はいくら使うかという届出で終わっている。例えば、一般家庭で使うところまで毎月報告を求めるかというようなところもあると思う。ただ、たくさん使うようなところは、やはりきちんと報告していただきたいので、そこの線引きをどうしようかというところ。最近は企業が知恵をつけてきており、受水槽をすぐ作る。7 平方センチメートルのものを使って。実態としてはいいが、100 人も入るような施設を造ってしまうと、それはないだろうという感じはあるが、どうやってやるかとなったときに、僕が建設課のときに聞いたときは、受水槽でいきますと、そしたらなにも問題ないということだった。

（副 会 長）しかし、20 トン以上を貯めて最大で使うと専用水道になる。そうなると水道技術管理者が必要となってしまうのではないか。

（事 務 局）そこはうまくクリアして、条例もうまくクリアしていく。そういったものが最近多い。事業者はなるべく早く事業を進めたいと思っているので、時間をかけてしまうと投資する方々と施工するタイミングが合わなくなってしまうので。

（副 会 長）そうすると、うちみたいのは完璧ダメということか。

（事 務 局）景観条例もいろいろな方がいて少し見直したが、水の方もいろんな企業の考え方もあるので、要するに実際に水をどれだけ使ったかということをつかみたいので、少し時間をかけて検討していきたい。

（副 会 長）一つ疑問がある。その水の井戸の条例を作るときに、今うちの No.1 と No.2 の井戸が 1 分間に 500 リッターの許可を取っていたとする。それが壊れてしまったので、同じ 500 リッターの井戸を新規に掘削しようとしても、町民が反対してしまうと既存の井戸より足りないものを掘らないといけなくなる。そうなると営業していけなくなるのではないかということを心配している。そのため、既存の 1 分間に 500 リッター以内なら認めて欲しいと前から思っていた。例えば、町民説明会でそんな資源の無駄遣いは駄目だと町民の皆さんから声がでてくると、掘削自体ができなくなる。そうした場合、ホテルは営業をやめることになりそうなので、そこだけはクリアしていただきたい。

（事 務 局）更新といったところも、今検討しようと考えている。実はその点も話題、テーマに入っている。

（副 会 長）その辺、よろしくお願いします。何せいまの井戸水が減ってきており、非常に危険な状態なので。

（会　　長）まさにそれは、周りにいろいろ掘っているからか。

（副 会 長）そもそも経年劣化により、井戸自体がだめになってきている。

（会　　長）でも、両方ありますよね。結局は水の資源は有限なので、周りに多く掘っていると流れる量は当然少なくなりますよね。

（副 会 長）そういう断層はあるかもしれない。ただ、うちの上には何もないので。その点だけよろしくお願いしたい。既存の容量以下なら認めるというところで。

（委　　員）水素の話題が出たので情報提供させていただくと、私どものほうで今、全国向けに水素を利活用する補助事業をやっている。水素というのは、実は燃料電池に使うのが一般的だが、燃料電池に使う水素は純度が求められてしまい、生成するのに非常に手間とエネルギーがかかる。そのため、今後の水素の利用の動向としては燃やすほうに動いており、環境省の補助金も燃やすほうへの補助事業に力を入れ始めている。水素は大して純度が高くなくても、燃やしてしまった方がエネルギーとしてすぐ使えるので、最近トヨタの宣伝で水素エンジンというお話をしているが、水素バーナーというものがかなりいまでき始めていて、燃やすというところに今後シフトしていくということになるということを情報提供させていただく。

７．閉会

以上

※A～C 社のアルファベットは企業名とは関係ありません。